

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	工場火災での屋内進入
3. 体験した事例の中心的要素	大規模な工場火災において、指定可燃物が燃焼する中、屋内進入し退出路が絶たれた
4. 体験した事例の原因・理由	火災が消防力を上回っていたこと及び危険意識の欠如。

【体験した事例の直接的原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 18 年 8 月 12 日 午後 18 時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋内：工場内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動中期、 [防火造建物]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	進入、
9. 同様の体験は、これまでにどの 程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[41]歳、 勤続年数[19]年、 現場経験年数[19]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [1年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者B	年齢[39]歳、 勤続年数[15]年、 現場経験年数[15]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [数年に1度程度]、 任務 [隊員]
○当事者C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[], 同様の活動 [], 任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

1 1. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A	非番招集により、現場へ出動する。	
経過 2	当事者 A	放水中の分団員と放水を交代し屋内進入する。	
経過 3	当事者 A	空気呼吸器の残圧低下を確認。退出を考える。	
経過 4	当事者 A	退出するため、後退するがホースが折れ曲がる。	
経過 5	当事者 A	ストレートノズルであったため、シャットできず。	
経過 6	当事者 A・B	当事者 B が屋内進入し補助に入る。	
経過 7	当事者 A・B	放水圧力が強すぎるため、身動き取れず。	
経過 8	当事者 A・B	火災は延焼拡大し、目の前すら煙でわからない。	
経過 9	当事者 A・B	当事者 B にノズルを預け、退出口を探す。	
経過 10	当事者 A・B	警報ベルが鳴動するも退出口わからず。	

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知っていた。避難・退避がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	いいえ
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	いいえ
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・ 足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	はい
・ 隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

・発生日時 :平成18年8月12日 午後6時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		隊員／消防士長 ・年齢 41 歳 ・勤続 19 年 ・現場 19 年 ・同様の活動：1年に数度	隊員／消防士長 ・年齢 39 歳 ・勤続 15 年 ・現場 15 年 ・同様の活動：数年に1度程度	
大規模な工場火災において、指定可燃物が燃焼。 非番招集により、現場へ出動する。 ↓ 放水中の分団員と放水を交代し屋内進入する。 ↓ 空気呼吸器の残圧低下を確認。退出を考える。 ↓ 退出するため、後退するがホースが折れ曲がる。 ↓ ストレートノズルであったため、シャットできず。 ↓ 当事者Bが屋内進入し補助に入る。 ↓ 放水圧力が強すぎるため、身動き取れず。 ↓ 火災は延焼拡大し、目の前すら煙でわからない。 ↓ 当事者Bにノズルを預け、退出口を探す。 ↓ 警報ベルが鳴動するも退出口わからず。 火災が消防力を上回っていたこと及び危険意識の欠如。				

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因:状況判断に問題があった。 ・危険事象の対応方法を知っていた。 ・避難・退避がうまくいった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動内容が、自己の能力や技量をを超えていた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 ・活動に対する経験が不足していた。 (活動環境について) ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。 (指揮・管理について) ・隊員の連携が不十分だった。 ・隊員が不足していた。